

令和7年度 兵庫県立松陽高等学校（定時制課程） 学校自己評価結果及び学校関係者評価

重点事項	努力事項 (評価項目)	学校自己評価の結果				令和7年度の活動評価					来年度の改善方策									
		実践目標	評価内容	比較	年度	平均	人数													
							A	B	C	D										
基本的な生活習慣の確立と基礎・基本の定着を図り、安全で楽しい学校づくりを目指す。	基本的な生活習慣を確立させるため、指導の工夫・改善	実践目標	評価内容	比較	年度	平均	A	B	C	D	令和7年度の活動評価	来年度の改善方策								
							1	あいさつや敬語など基本的なマナーを定着させる指導をする。	↘	R6			4.3	8	10	1	0	あいさつが自然にできる生徒と、ほとんど行わない生徒との間で二極化が見られた。	門立ち番や廊下での見守りなど、教職員が率先してあいさつを行い、日常的な声掛けを通して、マナーの重要性を粘り強く指導していく。	
							2	時間を守る（登下校、授業の開始など）指導をする。	↔	R6			4.4	11	7	0	1	多くの生徒は時間を守ることができているが、指導直後は改善が見られるものの、継続的な改善に至らない生徒も一部見られた。	定期的な全体指導に加え、個別指導を組み合わせることで、生徒一人一人の状況に応じたきめ細かな指導を、根気強く継続していく。	
							3	教職員の共通理解のもとに、生徒の特性や能力など個に応じた生活指導をする。	↔	R6			3.4	5	6	7	1	研修内容を教職員間で共有することで、共通理解を深め、実際の指導に活用することができた。	教職員の意見を取り入れながら、その時々課題に即した研修内容を検討し、より実践的な研修を実施していく。	
							4	生徒理解を深めるために、個別面談等を実施し、有効に活用する。	↔	R6			4.7	14	5	0	0	年に数回実施することで、生徒理解の深化につながり、生徒指導においても有効であった。	個別面談の内容を教員間で共有し、共通認識のもと、協力して指導が行える体制を整えていく。	
							5	警察など関係機関と連携し、生徒の交通安全に対する意識高揚に努める。	↔	R6			4.1	6	11	1	1	自転車の交通反則通告制度導入を見据え、交通ルールやマナー指導を行った結果、生徒の交通安全に対する意識が高まった。	自転車点検の実施に向けた具体的な計画を立てるとともに、「チャリプロ」等の取組を導入することについても検討していく。	
	分かる授業を展開し、基礎的な学力の定着と向上を図る。	生徒の進路希望を実現するため、就業体験事業やHRを計画的に実施するとともに情報提供、個別面談を実施し、未就職者の減少に努める。	実践目標	評価内容	比較	年度	平均	A	B	C	D	令和7年度の活動評価	来年度の改善方策							
								6	通学マナーの向上のため、立ち番や巡回などによる指導を徹底する。	↗	R6			4.6	14	3	0	1	立ち番や巡回を積極的に行い、声掛けを継続したことで、通学マナーの向上につながった。	巡回箇所や時間帯を見直し、状況に応じた効果的な巡回指導が行えるよう工夫していく。
								7	ホームページや学校通信などを活用し、学校の教育活動や方針、各種連絡事項についての情報を発信し、家庭との連携に努める。	↔	R6			4.4	11	7	0	1	学校案内パンフレットに在校生の声を取り入れたほか、学校紹介動画を刷新しホームページに掲載することで、校内外に向けた情報発信を充実させることができた。学校通信を月1回発行し、生徒の様子や行事内容・月間行事を伝えることができた。また、生徒や保護者との情報共有手段として、さくら連絡網やTeamsを積極的に活用した。	今後も個人情報の取扱いに十分留意しながら、生徒の日常の様子を積極的に発信できるように努めていく。
								8	ふるさと共創プロジェクトなど、学校と家庭、地域社会と協働した教育活動や行事を計画的に実施する。	↗	R6			4.3	11	5	3	0	地域清掃活動を2回、グラウンドゴルフ大会を1回実施したほか、初めて震災行事（避難所設営訓練）において保護者や地域の方々に参加していただくことができた。	清掃活動やグラウンドゴルフ大会を継続して実施していくとともに、生徒・保護者・地域の意見を取り入れながら、より交流とつながりを深められる企画・運営に努めていく。
								9	進路だけの発行や進路HRの計画的な実施によって、生徒の職業感や進路意識の高揚に努める。	↘	R6			4.6	15	3	0	1	定期的に進路通信を配信し、生徒や保護者に対して進路に関する情報提供を行うことができた。また、定期的にアルバイト調査を実施し、アルバイト先を探している生徒に対しては、個別に情報提供や助言を行った。さらに、進路希望調査を定期的に行うことで、生徒が卒業後の進路について考える機会を設けることができ、進路意識の向上につながった。	今後は、進路通信の内容をさらに充実させ、生徒がより具体的に将来をイメージできるよう工夫していく。また、アルバイトをしていない生徒に対しても積極的に声掛けを行い、進路意識を高めるとともに、進路希望調査の結果を踏まえ、より個に応じた指導の充実を図っていく。
								10	地元企業などへの会社訪問を計画的に実施し、求人への開拓や情報収集を図る。	↘	R6			4.4	12	5	1	1	定期的にガイダンスを実施し、地元企業に関する情報を収集するとともに、生徒に対して地域の産業や職業について理解を深める機会を提供することができた。その結果、求人件数は昨年度を上回り、進路選択の幅を広げることがつながった。	今後は、求人件数のさらなる増加を目指し、各企業との連絡や連携を一層強化するとともに、継続的な情報交換を行い、安定した求人確保に努めていく。
	生徒一人一人の個性や能力に応じた指導をおこない、基礎的・基本的な学力の定着と向上を図る。	生徒一人一人の個性や能力に応じた指導をおこない、基礎的・基本的な学力の定着と向上を図る。	実践目標	評価内容	比較	年度	平均	A	B	C	D	令和7年度の活動評価	来年度の改善方策							
								11	地域の人材や外部講師を活用するなどした、HRや進路説明会などを実施する。	↘	R6			4.6	13	5	1	0	講演会や進路ガイダンスを実施することで、生徒が実体験に基づいた話を聞く機会を設けることができ、自身の進路について具体的に考えるきっかけとなった。	今後は、ガイダンスの内容や構成を見直し、生徒の実態や進路希望により即した内容となるよう工夫し、より充実した進路指導につなげていく。
								12	生徒の進路実現に向けて、就業体験事業（年間最低1回）を実施する。	↘	R6			4.4	12	5	1	1	夏休み期間中に就業体験を実施し、事前指導および事後指導を行うことで、働くことの意義や職業理解を深める機会を設けることができた。参加した生徒からは、将来の進路について具体的に考えるようになったとの声も聞かれた。	今後は、より多くの生徒が参加できるよう、早い段階から周知を行うとともに、個別の声掛けを強化し、就業体験への参加促進を図っていく。
								13	成績処理システムの整備等により生徒の学習状況を把握・分析し、授業に集中できる環境づくりに努める。	↔	R6			4.3	10	7	1	1		
								14	校内研修や公開授業などにより、授業・指導法の研究に努める。	↘	R6			4.4	11	6	2	0	教育課程においては、生徒の実態に応じた教育内容となるよう、学年ごとの履修科目について再検討を行った。現時点において考え得る最善の教育課程を編成することはできたが、社会は変化し生徒のニーズは年々多様化している。そのため、現状に満足することなく、常に新しい情報を取り入れ、新たな視点で見直す体制を維持していく必要がある。	個別最適な学びを提供するため、保健部や生徒指導部と連携し、学校全体として組織的に対応できる体制を今後も継続していく。具体的には、非常勤講師を含めたすべての教職員が生徒理解や指導方針について共通認識をもって指導にあたれるよう、定期的な職員研修会を実施するとともに、カウンセリング・マインド研修などを通して支援体制の充実を図る。また、習熟度別授業の導入や変則的なティーム・ティーチング(T.T)の活用などを検討し、授業の在り方そのものを見直ししていく。
								15	理解しやすく楽しい授業を目指し、研究会・研修会への参加など教科指導や学習方法の工夫・改善に取り組む。	↘	R6			4.5	13	4	2	0	近年、生徒の多様化が急速に進展し、学力差も年々拡大している。本校では、少人数による授業を展開し、生徒一人ひとりの理解度に応じた学びを提供してきた。しかし、拡大しつつある学力差の中で、全ての生徒が満足できる授業を行うことが次第に困難になってきている。今後は、習熟度別授業の導入や変則的なティーム・ティーチング(T.T)の活用などを検討し、授業の在り方そのものを見直し時期に来ている。	近年、AIに過度に依存する若者の存在が社会的な課題として指摘されているが、ICTやAIに「使われる」立場に陥ることのないよう、情報活用に関する倫理教育の一層の充実を進めていく。また、教員自身のデジタルリテラシー向上にも継続的に取り組み、生徒一人一人が主体的に考え、判断し、行動するという教育の原点を大切に指導を心がけていく。
生徒一人一人の個性や能力に応じた指導をおこない、基礎的・基本的な学力の定着と向上を図る。	生徒一人一人の個性や能力に応じた指導をおこない、基礎的・基本的な学力の定着と向上を図る。	実践目標	評価内容	比較	年度	平均	A	B	C	D	令和7年度の活動評価	来年度の改善方策								
							16	確かな学力の定着を目指して、T.T.(ティーム・ティーチング)等を活用し、個に応じた丁寧な学習指導を行う。	↘	R6			4.7	13	6	0	0	生徒の興味・関心を高め、個別最適な学びを実現するため、ICTを活用した授業にも積極的に取り組んできた。ICTを活用した授業は、これまでにない新たな可能性を広げてきた一方で、生徒の興味・関心を継続的に維持するためには、ICTの活用にも過度に依存することなく、アナログの良さを生かした指導についても併せて検討していく必要がある。		
							17	生徒の興味・関心や進路希望に応じた学習活動を実施する。	↔	R6			4.3	9	8	2	0			
							18	3修制の整備を図り、各教科間の連携を深めるとともに、総合的な学習の時間やLHRを利用して、基礎的な学力の向上を図る。	↘	R6			4.5	12	6	1	0			
							19	生徒の教育活動が安全かつ円滑に実施できるよう、学校設備の点検や整備などを定期的に行う。	↔	R6			4.2	8	9	2	0	事務室と連携し、生徒が安心・安全に学校生活を送れるよう、校内施設の点検や必要な修理等を適切に実施することができた。また、昨年度から始まった月1回の清掃活動についても継続して実施し、教職員が校内の状況に目を向ける機会を確保することで、不具合等の早期発見に努めることができた。	今後も生徒および教職員の意見を踏まえながら、安心・安全な学校づくりを組織的に進めていく。また、改修や新たに設置された設備についても大切に使用できるよう、生徒・教職員への継続的な呼び掛けを行っていく。	
							20	阪神・淡路大震災の教訓を生かし、防災教育を計画的におこなうとともに、生徒の防災・安全意識の高揚を図る。	↗	R6			4.6	13	5	1	0	4月には高砂消防署の協力のもと、火災を想定した避難訓練および水消火器を使用した消火訓練を実施した。また、自衛隊によるワークショップを開催していただき、災害時に活用できる知識や技術を学ぶ機会を設けた。さらに1月には、初めて停電時を想定した避難訓練を実施し、複数の外部機関と連携して避難所設営訓練を行った。保護者や地域の方々にも参加していただき、実践的で充実した訓練となった。	停電時の訓練を実施したことで、拡声器の音声十分に届かないなどの課題が明らかになった。今後はこれらの改善点を次年度の訓練に反映させるとともに、本校の防災体制全体の見直しにつなげていく。	
生徒一人一人の個性や能力に応じた指導をおこない、基礎的・基本的な学力の定着と向上を図る。	生徒一人一人の個性や能力に応じた指導をおこない、基礎的・基本的な学力の定着と向上を図る。	実践目標	評価内容	比較	年度	平均	A	B	C	D	令和7年度の活動評価	来年度の改善方策								
							21	学年行事やHR活動など特別活動を活用して、防災意識や安全意識の高揚に努める。	↔	R6			4.6	15	2	2	0	総合的な探究の時間において、避難カードや防災グッズを題材に防災知識を深める活動を行い、生徒同士の意見交換を通して防災への関心を高めた。また、避難所設営訓練の事前学習として、防災士会や高砂市の担当者による出前授業を実施していただき、理解を深めることができた。	今後も防災に関連した授業や行事を継続的に実施し、防災意識のさらなる向上を図るとともに、生徒自身が主体的に考え行動できる力を育成していく。	
							22	定期健康診断を計画的に実施し、受検率を向上させ、生徒・教職員の「健康管理」に対する意識向上を図る。	↗	R6			4.3	11	5	3	0	生徒の定期健康診断の受診率は、昨年度に引き続き高い水準を維持しており、概ね良好な状況であった。	教職員の定期健康診断についても、今後も高い受診率を維持していく。また、生徒に対して丁寧な声かけを行い、健康管理の重要性を継続して意識づけていく。	
							23	生徒・教職員の保健・衛生に関する意識を高めるため、保健講話の実施や配布物・掲示物を作成する。	↔	R6			4.2	9	8	1	1	妊娠・出産をテーマとした保健講話では、ママズケアの代表者を講師としてお招きし、自身のライフプランニングや自分を大切にすることの重要性について講演をしていただいた。生徒が自らの生き方を振り返り、前向きに将来を考える良い機会となった。	今後は生徒の実態を踏まえ、心と体の健康についてより理解を深めることができる内容となるよう、講話テーマや方法を検討していく。	
							24	生徒や保護者・教職員の「心の健康教育」の充実に役立つよう、制度の周知に努め、教育相談を実施する。	↔	R6			4.5	11	7	1	0	生徒を対象とした教育相談は定期的に行うことができた。教職員による玄関でのあいさつ活動を通して、生徒の些細な変化に気づく機会が増え、情報共有につなげることができた。また、ICTを活用した相談体制により、生徒の悩みを早期に把握し、迅速に教育相談へとつなげることができた。	自らSOSを発することが難しい生徒もいるため、今後もあいさつ活動を中心とした見守り体制を強化し、必要に応じて教育相談につなげていく。	
							25	「心の健康教育」推進のために、教育相談に関する研修を計画的に行い、カウンセリング・マインドの涵養に努める。	↘	R6			4.6	12	7	0	0	カウンセリング・マインドに関する職員研修は、計画どおり実施することができた。	今年度より導入した、生徒がICT端末を活用して悩み相談ができる体制は一定の効果を上げているため、今後も継続していく。あわせて課題点を整理し、随時改善を図りながら、より相談しやすい環境づくりに努めていく。	
生徒一人一人の個性や能力に応じた指導をおこない、基礎的・基本的な学力の定着と向上を図る。	生徒一人一人の個性や能力に応じた指導をおこない、基礎的・基本的な学力の定着と向上を図る。	実践目標	評価内容	比較	年度	平均	A	B	C	D	令和7年度の活動評価	来年度の改善方策								
							26	教職員の人権意識を高めるため、研修会などを計画的に実施する。	↔	R6			3.9	5	11	3	0	同和教育の専門家をお招きし、教職員を対象とした研修を実施した。また、昨年度に引き続き高砂市障害福祉課、高砂市障がい者基幹相談支援センター等と連携し、生徒支援が可能な体制を整えた。	今年度は外部機関との連携体制は整っているものの、活用の機会は限定的であった。今後は連携機関から研修講師の候補を広く検討し、より実践的で有用な研修内容となるよう工夫していく。	
							27	国際理解教育の推進や人権意識の高揚のため、HRや学校行事などを活用し、「人権教育」を計画的に実施する。	↘	R6			3.4	5	7	5	2	特定の人権課題のみを強調するのではなく、すべての人が尊重され、思いやりをもった言動を取ることを目標とした人権教育を行った。その結果、学校行事やHR活動の中にも人権教育を自然に位置づけることができた。	今後は生徒指導部や保健部と連携することで、生徒の実態に応じた人権教育を計画的に実施し、人権意識のさらなる向上を図っていく。	
							28	いじめ防止基本方針についての研修を通して、いじめに対して毅然とした態度で臨む指導を徹底する。	↗	R6			4.1	8	8	3	0	いじめ防止基本方針の見直しを行い、内容について教職員への周知徹底を図った。また、いじめの認知についても積極的にを行い、早期対応に努めた。	今後も生徒指導部長による訓話等を通して、いじめの未然防止および早期発見につながる指導を継続していく。	
							29	未然防止及び早期発見のために、いじめに対する教職員の資質能力の向上を図る校内研修など、年間計画を策定する。	↔	R6			3.9	7	8	4	0	年間計画に基づいて研修を実施し、いじめ対応に関する教職員の理解と意識の向上につなげることができた。	今後は学校や生徒の状況に応じた研修内容を工夫し、より実践的な対応力の向上を目指していく。	
							30	いじめの疑いがある事実を把握した場合やいじめを察知した場合は情報の収集、記録情報の共有、いじめの事実確認を行い、迅速にいじめの解決に向けた組織的対応を構築する。	↗	R6			4.1	8	8	3	0	いじめに関する情報共有を積極的にを行い、関係教職員が連携して組織的な対応を進めることができた。	今後もさらなる情報共有の徹底と迅速な報告体制の確立に努め、いじめの早期解決につなげていく。	
<p>(学校関係者評価委員会からの提言)</p> <ul style="list-style-type: none"> 行事においても、教員と生徒の関係が良好であると感じた。次年度からのコミュニティスクールについても、共により良いものにしていきたい。 地元の良い企業であっても価値が伝わらないため人材不足が生じている。この魅力を幼少期から伝えていく教育が大切ではないか。地元での就職を促すような指導もお願いしたい。 今後AIに頼る場面が増えていくが、それをいかにするための語学力や読解力が重要である。これらの力を養うためには読書が有効なので活用してほしい。 																				